

枚方市障害者計画(第4次改訂版)の令和6年度進捗状況一覧

資料2-2

1. 市民啓発及び地域との交流の推進

1 多様な啓発の推進

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|-------------------|--|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 人権・人命の尊重 | 人権尊重のまちづくりへの総合的取組 | 人権尊重の理念の浸透と障害者への差別をはじめ、あらゆる差別の撤廃に向け、啓発や学習を進めていきます。 | 人権尊重のまちづくりを実現するために、枚方人権まちづくり協会へ委託し、講座「生きること」、人権文化セミナー、人権週間事業及び北朝鮮人権侵害問題啓発週間事業を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 人権政策課 |
| | | | 人権教育担当者を対象に研修会を実施しました。 令和6(2024)年11月27日(水曜日)に”僕は絵本の中で初めて出会った～絵本の取材で見た食肉業と差別～”というテーマで、中川 洋典さん(絵本作家)に講師をしていただきました。 地域人材等の活用による職業講話、職業体験等を通して生徒は障害に関する理解を深めました。 枚方市PTA協議会の中に子ども人権啓発委員会等を組織するとともに、家庭や地域との連携を深め、人権意識の高揚・啓発を積極的に推進しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|---------|---|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 人権・人命の尊重 | 職員研修の実施 | 障害に関する理解を深めるため、人権や障害に関する職員研修を行います。また、手話研修など、障害への理解認識を深める取組を継続します。 | 新入職員を対象とした研修において、障害者差別解消法に関する知識習得のため、担当部署の職員より説明を受ける機会を設けました。加えて、車いすや視覚障害のある方への誘導や案内方法について体験し、障害のある方への理解を深める研修も実施し、91人が参加しました。 また、手話研修は公募により、講義「聴覚障害への理解」及び「手話演習」の全4回を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 人事課 |
| | | | 新入職員に対し、障害に関する理解を深めるための研修を行ったほか、手話研修や外部研修への参加などにより、障害への認識を深めるよう取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | | | 新入職員や新任課長、障害企画課及び障害支援課の新任担当者に対し、障害に関する理解を深めるための研修を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|-------------------------|---|---|------------------------|-----------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 虐待や差別の防止 | 障害者の権利擁護と成年後見制度の利用援助の充実 | 知的障害者、精神障害者、認知症高齢者等の権利擁護を図るために、成年後見制度について、相談を受け援助できる体制を整備し、事業の充実に努めます。 | 健康福祉総合相談課窓口・各地域包括支援センターにて成年後見制度の相談対応や制度申請時の書類作成の援助を行っています。市長申立ては15件行いました。中核機関として設置しているひらかた権利擁護成年後見センターにて広報、相談、制度の利用促進、後見人支援等、支援体制の充実に努めるとともに、福祉サービス利用援助事業とも連携するなど、権利擁護に取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉総合相談課 |
| | | | 成年後見制度利用支援事業により、報酬助成15件の費用助成を実施し、後見制度を利用する生活保護等の低所得者が、より円滑に成年後見制度を利用できるよう支援しました。市長申立ては1件行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 権利擁護のための制度等の周知 | 成年後見制度や社会福祉協議会が実施している権利擁護のための取組について障害のある人や家族への周知を図るとともに、広報、パンフレットの発行や窓口等における情報を提供します。 | 健康福祉総合相談課窓口・各枚方市地域包括支援センターにて相談に対応し、必要に応じ関係機関の紹介、関係資料を配布しました。障害者や認知症高齢者の地域生活を支えるため、社会福祉協議会と連携し、ひらかた権利擁護成年後見センターや福祉サービス利用援助事業の中で、成年後見制度や権利擁護のための取組について周知を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉総合相談課 |
| | | | 成年後見制度に関するパンフレットを窓口に着用し、成年後見制度の情報を必要とされる市民に対し配布し、成年後見制度の仕組みや手続き等の情報提供を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|--------------|---|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 虐待や差別の防止 | 虐待への対応 | 障害者への虐待防止のため、障害者虐待防止センターで、24時間365日体制で相談・通報に対応します。関係機関と連携し、虐待発見後の迅速、かつ適切な対応を図ります。 | 枚方市障害者虐待防止センターにおいて、随時相談・通報を受付しました。電話による受付は24時間365日対応し、その他市内7か所の障害者相談支援センターの協力を得て、受付を行いました。また虐待の防止、迅速な対応のため、関係機関との連携、情報共有の場として関係機関会議を開催しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 障害者差別解消法への対応 | 障害者に対する差別の解消に資する取組として、関係機関とネットワーク組織を構築し、情報の収集及び共有を図ります。相談事案に対し、関係機関や大阪府と連携し、差別解消に向けた取組を推進します。 | 枚方市障害者差別解消支援地域協議会を開催し、相談事例について意見交換を行いました。また、市内事業者に対する周知啓発の取組として、協議会委員の所属団体の協力のもと、各会員事業者あてに令和6年5月に開催された内閣府主催の障害者差別解消法に係る事業者向け説明会の案内を行うとともに、その他事業者、市民向けに市ホームページへの関連情報の掲載を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------|---------------|---|--|-------------------------------|------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (3) 合理的配慮 | 障害者への理解を深める教育 | 小・中学校においては、学年に合わせて、さまざまな障害に関する障害者理解教育を進めます。 | 資料として、「人権教育のための資料」(大阪府教育委員会)、「学校における人権教育推進のための事例集」(大阪府教育委員会)、「人権基礎教育指導事例集」(大阪府教育委員会)、「人権教育の指導方法等の在り方について」[第一次とりまとめ][第二次とりまとめ][第三次とりまとめ](人権教育の指導方法等に関する調査研究会議)、「ともに学び、ともに育つ障害教育の充実のために」(大阪府教育委員会)、「精神障がいについて理解を深めるために」(大阪府教育委員会)を活用しました。市立小中学校における主体的な取組として、盲導犬に関する講話、点字・拡大教科書や手話に関する学習会や白杖に関する体験学習、地域の障害者通所施設との交流、大阪府立支援学校の児童・生徒との居住地校交流を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | 情報発信 | 広報ひらかたやホームページをはじめ、さまざまな媒体を通して、障害や障害者に関する啓発活動及び取組などの情報を広く発信していきます。 | 広報ひらかたやホームページをはじめ、さまざまな媒体を通して、障害や障害者に関する啓発活動及び取組などの情報を広く発信しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 広報プロモーション課 |
| | | | 市民や事業者への合理的配慮に関する周知啓発として、令和6年4月施行の改正障害者差別解消法の関連情報を市のホームページに掲載しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | | | 各種申請勸奨のほか、講習会(スポーツ講習、手話講習、ガイドヘルパー養成研修、スマホ教室など)の開催などについての周知を、広報ひらかたやホームページで行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------|---------|---|---|------------------------|------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (3) 合理的配慮 | イベントの開催 | 障害や障害者への理解を促すため、啓発イベントやキャンペーンを開催します。 | 障害者への理解及び認識を深める機会として講座「生きること」、9月25日山本芙由美さんによる講座「ろうとLGBTQの交差から「多様性」を考える」を開催しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 人権政策課 |
| | | | 障害のある人が地域でいきいき活動できる社会実現を目指すイベント「ほっこりひらかた2024」として講演会を開催しました。 令和6年4月2日にカリヨンの鐘(ヒラリヨン)のライトアップにより、「世界自閉症啓発デー」普及啓発の取組を行いました。 手話は言語であるという認識のもと、手話への理解と普及促進に向けた取組として、国連が定めた9月23日の「手話言語の国際デー」当日にはヒラリヨンのブルーライトアップを実施し、手話サークル等の関係者が手話歌を披露するなどして、手話の普及啓発に取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 選挙のおしらせ | 視覚障害者への情報提供のため、選挙公報の点字版と音声版を作成します。また、市議会議員選挙及び市長選挙については聴覚障害者への情報提供のため、選挙公報の手話翻訳を映像化したDVDを作成します。 | 令和6年度の選挙は、国政選挙のため、本市では作成していません。(大阪府が作成) | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 選挙管理委員会事務局 |

2 地域との交流

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------|-------------|---|--|-------------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 地域福祉活動 | 地域福祉活動の普及 | 市民が主体的に担う地域福祉活動を促進するため、多様な学習の機会や広報によって、地域福祉の考え方の普及を図るとともに、活動の紹介などを行います。 | 令和6年度においては、「みんなで取り組む地域福祉～地域の交流の場を地域で創る～」をテーマとして地域福祉セミナーを開催しました。地域の交流の場の重要性について講演いただくとともに、実際に地域で活動されている方々から活動事例等を紹介いただき、地域福祉を学ぶ場として市民の方に受講いただきました。また、令和7年3月に「枚方市地域福祉計画(第5期)」を策定し、枚方市における地域福祉の考え方や取組の普及を図るとともに、地域福祉推進のための具体的取組を定めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |
| | 「地域福祉計画」の推進 | 「枚方市地域福祉計画」に基づき、社会福祉協議会等関係団体と連携しながら、地域福祉活動への支援を充実させます。 | 令和6年度においては、地域福祉計画に紐づく事業を推進することができました。また、「枚方市地域福祉計画(第5期)」の策定に際し、地域福祉活動として実施されている子育てサロンやいきいきサロンにて、参加者や活動者に活動の必要性や課題についてお話を伺い、計画への反映を行いました。地域福祉活動の担い手不足の解消に向け、地域福祉セミナーにおいて地域でボランティア募集をし、新たに地域福祉活動へ参加してもらえるようになった事例を紹介し、多数の参加者より自身の地域でも同様の取組を行ってほしいとお声をいただきました。令和6年度から令和8年度までを計画期間とした「ひらかた高齢者保健福祉計画21(第9期)」について、関係課において計画に掲げた各取組を推進しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |
| | | | 上位計画である「枚方市地域福祉計画」と整合を図りつつ、策定された第4次改訂版枚方市障害者計画、枚方市障害福祉計画(第7期)及び障害児福祉計画(第3期)を策定しており、令和5年度の進捗状況等の確認を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------|-------------|--|--|-------------------------------|-------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 地域福祉活動 | 「地域福祉計画」の推進 | 「枚方市地域福祉計画」に基づき、社会福祉協議会等関係団体と連携しながら、地域福祉活動への支援を充実させます。 | 令和6年度から令和8年度までを計画期間とした「ひらかた高齢者保健福祉計画21（第9期）」について、関係課において計画に掲げた各取組を推進しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 介護認定給付課 |
| | | | 市が作成した介護予防ツールをいきいきサロン健康づくりサポーターに周知し、地域の皆様がそのツールを使用し各グループの活動で実践できるようにしています。令和6年度はもしバナカードを講座で紹介し34人が参加しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |
| | | | 妊娠届時には保健師や助産師が全数面接相談を行い、妊娠・出産・子育てに関する相談及び情報提供を行いました。また、妊産婦及び乳幼児の保護者を対象に、乳幼児健康相談・母子電話来所相談・母乳相談・栄養相談・個別発達相談を実施しました。継続支援を必要とする場合には、地区担当保健師が家庭訪問等を行い、必要に応じて関係機関と連携しながら継続的に支援を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------|-----------------|---|--|-------------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 地域福祉活動 | ボランティア活動支援体制の整備 | 社会福祉協議会(枚方市ボランティアセンター)等と連携して、ボランティアが円滑に活動できるよう必要な環境整備を図ります。 | 社会福祉協議会(枚方市ボランティアセンター)では、ボランティアグループ連絡会や市内のボランティアグループと連携し、支援を必要とする人とボランティアをつなぎました。また、ボランティア活動者同士の情報交流や活動交流などを行い、活動者たちへのサポートを行いました。 また、ボランティア活動に関心のある若年層(学生～社会人)が相談しやすいように隔月の第2土曜日にボランティア相談ができるサロンを開催しました。そのほかにも、災害時に活動を行う災害ボランティアを募るため、ミニ講義などを開催し、新規登録の周知を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |
| | ボランティア体験の推進 | 社会福祉協議会(枚方市ボランティアセンター)等と連携して、誰もが参加できるボランティア体験事業を推進します。 | 社会福祉協議会(枚方市ボランティアセンター)では、市民向けボランティア講座の開催やボランティア体験プログラム等、ボランティア活動の啓発や活動のきっかけ作りの場を定期的に開催しました。ボランティア活動の希望者については、ボランティアグループ等と連携し、継続したボランティア活動に繋げました。また、小中学校、地域の組織などと連携し、福祉教育の一環として、車いす体験や白杖・アイマスク体験などの福祉体験講座を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------------|-----------|--|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 地域交流の推進と居場所づくり | 交流機会の充実 | サービス事業所等と連携し、障害の有無にかかわらずともに楽しめるレクリエーションや文化・スポーツ活動等の交流機会の充実を図ります。 | 障害者等の交流を図るイベント「ジョイフルクリスマス会」及び「ふれあいスポーツ交流会」を開催しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 身近な居場所づくり | 障害者が日常的に、気軽に立ち寄り時間を過ごせる身近な交流拠点を、地域活動支援センターとの連携によって確保します。 | 市内9か所の地域活動支援センターでは、障害者が日常的に気軽に立ち寄り、時間を過ごせるよう、様々な創作的活動や生産活動のメニューを用意し、多くの方が利用しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

2. 障害者(児)が安心できるまちづくり

1 公共施設の整備等

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|------------|---|--|-------------------------------|----------------------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) バリアフリーの整備 | 公共施設の整備・改善 | 誰もが利用しやすい公共施設をめざし、市有施設の整備・改修に際し、バリアフリートイレ、スロープ等を設置し、バリアフリー化を進めます。 | 保健センターのリニューアル工事に併せ、別館にエレベーターを設置しました。今後も利用しやすい公共施設をめざし、整備に努めます。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 施設整備課 |
| | 学校環境の整備 | 誰もが安心して通えるよう、バリアフリートイレ、スロープに加えて計画的にエレベーターを設置するなど、環境整備を進めます。 | エレベーターを計画的に整備していく考えを示した「学校施設のエレベーター整備等に関する方針」に基づき、小学校1校のエレベーター設置を行いました。また、児童生徒の個々の状況に応じて、点字ブロックや教室出入口段差解消等の改修を随時行いました。今後も利用しやすい学校環境の整備に努めます。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 施設整備課 施設計画課 施設管理課 教育政策課 |
| | 公園の整備・改善 | すべての利用者がより円滑に利用できるよう公園施設の更新、改修、撤去等を行い、バリアフリー化を順次進めます。 | 公園施設の更新等を行う際に、都市公園の移動等円滑化整備ガイドラインを参考に整備に取り組むよう努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 公園みどり課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-------------------|---|---|------------------------|------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) バリアフリーの整備 | 駅及び周辺のバリアフリー化 | 障害者が安全で快適に移動できるよう、「枚方市交通バリアフリー基本構想」等に基づき、今後も歩道の段差解消、点字ブロックの敷設など歩道のバリアフリー化を図るとともに、利便性や安全性の向上促進を図るため関係機関等との連絡調整を行います。 | 当事者及び交通事業者等で構成する「枚方市バリアフリー推進協議会」を開催し、バリアフリー基本構想に基づく道路特定事業計画や踏切内の安全対策をはじめ、各事業者からのハード・ソフト両面からの取組内容の報告を行い、当事者との意見交換を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 土木政策課 |
| | | | 牧野北町第2号線(牧野駅周辺地区)において、令和6年度完成に向けて障害者ならびに高齢者が安全かつ円滑に通行することを目的として、車道部に外側線の設置を行い歩行者空間の確保、併せて視覚障害者誘導用ブロックの設置を行い、府道京都守口線から公共施設へのバリアフリー化整備工事を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 道路河川整備課 |
| | 枚方市駅周辺再整備ビジョン推進事業 | 本市の中心市街地として魅力あふれる賑わいのあるまちの実現に向けた連鎖型まちづくりの具体化を図るため、枚方市駅周辺再整備基本計画や枚方市新庁舎整備基本構想に基づき、各街区における取組を進めます。 | 駅前広場の整備に伴い、駅前広場の機能について、バリアフリー協議会にて意見を聴取し、音声蝕知サイン(音声と触る案内の併用)の設置など再開発組合と連携して、北口駅前広場の設計に反映しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 市駅周辺まち活性化部 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-----------|--|---|---|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) バリアフリーの整備 | 歩道環境の改善 | 障害者の通行の妨げとなる放置自転車や不法占用物を撤去、めいわく駐車への指導とともに、市民啓発を進めます。 | 放置自転車等の撤去及び市民啓発を進めました。また、不法占用物の撤去及び市民啓発を進めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 道路河川管理課 |
| | | | 枚方市駅周辺を「めいわく駐車防止重点地域」とし、自動車および50cc超のバイクに対し、交通指導員によるめいわく駐車防止の啓発を行っています。チラシ配布車両台数は2,700台でした。また、枚方市自転車等の放置防止に関する条例に基づき、鉄道駅周辺に放置している自転車、ミニバイク(50cc以下)の指導・警告・移送を行いました。警告車両台数は14,790台、移送台数は721台でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 交通対策課 |
| | 交通安全施設の設置 | すべての人が安全に通行できるよう、ポストコーン、転落防止柵など交通安全施設の整備を行います。 | 交通安全施設整備を下記のとおり実施しました。 ・安全柵 107m ・カーブミラー 39基 ・区画線 27,487m ・ポストコーン 18本 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 交通対策課 |
| | 福祉移送サービス | 障害者の社会参加の機会を拡充するため、運転者養成講習会を実施し、サービス提供の確保を図ります。 | 福祉移送サービス事業者として、市内の10事業者が国への登録を行い、障害者や高齢者に移送サービスを提供しました。また、共同配車センターへは、5事業者が登録を行い、サービスを提供することで、障害者の社会参加の機会の拡充に取り組みました。 | 見直し 共同配車センターの配車実績は、ピーク時から大幅に減少しており、事業として一定の役割を果たしたため、令和7年度末をもって終了します。福祉移送サービスは、各事業所で引き続き利用できます。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|----------------|---|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) バリアフリーの整備 | グループホームへの支援 | グループホームのバリアフリー化若しくはスプリンクラーの設置等を行う事業者へ支援を行い、重度の障害者の地域移行の促進に努めます。 | 市内にグループホームを新規に開設、又は定員を増加するための増設をする事業を行う際に、枚方市グループホーム新規開設等整備補助金を交付することにより、グループホームの整備を図るとともに、障害者の地域移行促進を図りました。令和5年度に市内のグループホームにおいて、より重度の障害者の地域移行を促進できるよう要綱改訂を行い、名称を枚方市グループホーム重度障害者対応改修補助金と変更しました。令和6年度の交付申請は0件でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 住宅改造助成 | 重度障害者に対する住宅改造費の一部助成については、さらなる周知を図り、利用の促進に努めます。また必要な対象者がより活用しやすくなるよう適切に事業を実施します。 | 令和6年度の利用実績は18件でした。本制度を活用したことにより、障害者及び介護者の日常生活での安全性・利便性の向上を図ることができました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 住まいに関する相談と情報提供 | 住宅を含めた生活全般に関する相談を、市内の相談支援事業者等で実施していくとともに、情報収集・提供に努めます。 | 市内7か所の相談支援センター及び市内の相談支援事業者等で、住宅を含めた生活全般の相談を実施しました。また、福祉事務所障害企画課においても、情報収集・提供に努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

2 保育・療育・教育の充実

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|------------|---|--|-------------------------------|-------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 乳幼児健康診査の推進 | 乳幼児健康診査・新生児聴覚検査において、障害の早期発見・早期対応に努めます。また、健診時やその後のフォローを通じて保護者の育児支援に努めます。 | 乳幼児に対して、各時期に健康診査を実施し、疾病や障害の早期発見・早期対応を図り、その保護者に対して子育てに関する相談・保健指導を実施しました。 まるっとこどもセンターでの集団健康診査(4か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査)、府内医療機関での個別健康診査(乳児一般健康診査、乳児後期健康診査)を実施し、経過観察が必要な場合は、小児神経科医や児童精神科医等による二次健診及び心理相談員による個別発達相談を実施しました。 さらに、聴覚障害の早期発見、早期療育を目的に、新生児聴覚検査の費用助成を行っています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|---------|---|---|-------------------------------|-------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 早期対応の充実 | 健康診査等の結果、発達の経過観察が必要な子どもと保護者に対し、発達相談等において助言・指導を行い、必要に応じて療育や医療との連携を図ります。また、乳幼児健康診査事後指導事業(親子教室)においては、小集団での親子の保育を通じて、保護者の育児支援等、早期の対応に努めます。 NICU(新生児集中治療室)から在宅生活へ移行する身体障害児及び長期療養児については、退院前から医療機関と連携し、退院後も円滑に医療・療育が受けられるよう支援します。 | 健康診査の結果、発達の経過観察が必要な子どもと保護者に対し、小児神経科医や児童精神科医による二次健診及び心理相談員による個別発達相談、保健師による家庭訪問を実施しました。 継続的な個別支援が必要と思われる子どもと保護者に対しては、乳幼児健康診査事後指導事業(親子教室)を実施しました。通室は週に1回行うものとし、子どもの年齢や発達の特徴からグループ分けを行っています。保育内容は各グループの特徴に応じて設定し、保護者の育児支援に努めました。 療育や医療が必要な場合には、ひらかた子ども発達支援センターや医療機関等へ紹介し、連携を図りました。 医療機関から退院後、継続して医療的ケアが必要な子どもについては、退院前から医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、円滑に在宅生活へ移行できるよう支援しました。小児慢性特定疾病児童等の医療費助成申請者に対し、全数アンケートを開始し、相談対応に努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |
| | | | | | |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|-------|--|--|-------------------------------|-------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 療育の充実 | 個別療育、保護者指導等、きめ細かな療育の提供を対象児童に行います。市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、日々の生活を基盤とした個別・集団的な療育を実施するほか、医師の指示の下、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたリハビリテーションを実施し療育の充実に努めます。 | 検診、進学等障害児の状況に合わせ、関係機関にてケース情報の引継ぎ等の連携を行いました。また、「枚方市障害児等関係機関連絡会議」を概ね2か月に1回開催（実務者会議、代表者会議）し、参加関係機関から、報告及び情報の共有を行い、障害児支援に関する知識の向上を図りました。また各支援学校の進路懇談会に、障害支援課、障害者相談支援センター等で参加し、障害福祉制度の説明を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | | | 市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、通所児に対して、障害児相談支援でたてた計画を元に日々の生活を基盤とした個別・集団的な保育・療育を実施しました。このほか、医師の指示の下、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたリハビリテーションを実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 市立ひらかた子ども発達支援センター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|----------------|--|---|------------------------|-------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 地域療育の推進と地域との連携 | 市立ひらかた子ども発達支援センターでは、センターと地域の保育所、幼稚園、小学校に通う子どもとの交流を図ります。また、発達上支援を必要とする子どもとその保護者を対象に、「地域支援事業」を実施し、子どもの成長と保護者の子ども理解の促進に努めます。加えて、子どもの成長や発達に見通しをもってもらうことを目的に、「子育て講座」を実施します。まるっとこどもセンターにおいて、在宅の障害児に対して医師等専門職による相談・助言等を行うとともに、地域療育と連携を図ります。 | 市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、支援を必要とする子どもとその保護者に対し、集団遊びの場として「地域子育て支援事業“すくすく”」を実施しました。また、発達上支援や配慮が必要な子どもについて、同じ悩みを持つ保護者が語り合う場としてすくすく懇談会を9回開催しました。子どもの発達や障害についての理解を深め、成長や発達に見通しをもっていただくことを目的として、子育て講座を3回開催するとともに、障害のある子どもの支援に関わっている地域の支援機関等を対象に地域連携講座を1回開催し、地域療育の推進に努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 市立ひらかた子ども発達支援センター |
| | | | 身体障害児や長期療養児に対し、医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理相談員、保育士、保健師による来所相談や訪問指導を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|----------|---|--|------------------------|-------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 関係機関との連携 | まるっとこどもセンター、療育機関、保育所(園)、幼稚園等から小学校、小学校から中学・高等学校、中学・高等学校から進学先・就職先、就職先から福祉施設へと発達障害のある児童を含め障害児童のニーズに応じた進路の選択が行えるよう、庁内及び関係機関との連携を図ります。枚方市障害児等関係機関連絡会議において、障害のある児童及びその周辺の児童(健診等でのフォロー児童等)並びにその家族が抱える様々な問題に対して、情報交換、意見交換等を行い、関係機関の連携を図ります。また、公的な制度や支援の内容、相談できる機関等をまとめたガイドブック「福祉・教育のてびき」子ども版をより分かりやすく改訂します。 | 療育機関、保育所(園)、幼稚園、小学校等への就園・就学にあたり、ニーズに応じた進路選択ができるよう、関係機関と連携を図りながら保護者支援に努めました。また、枚方市障害児等関係機関連絡会議においては、事務局メンバーとして会議の運営に携わりながら、関係機関の連携に努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |
| | | | 検診、進学等障害児の状況に合わせ、関係機関にてケース情報の引継ぎ等の連携を行いました。また各支援学校の進路懇談会に、障害支援課、障害者相談支援センター等で参加し、障害福祉制度の説明を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | | | 小学校就学前に、就学先の小学校教員が園所に訪問し、就学児の様子把握や職員からの聞き取りを行ったり、園所からも幼児の様子を学校側に伝えたりなど連携を図るとともに、就学する際に、保育所からは要録を、幼稚園からは抄本を学校に送付しています。個別の支援計画を立てている幼児や、発達相談を利用している幼児については、保護者を通じても小学校へ情報提供を行うなどの取り組みを行っています。また、教育委員会との就学相談の機会や、支援学校、支援学級の見学など、保護者へ周知するだけでなく、職員間でも連携会議などを実施しています。保育所においては、校長会や私立保育所(園)とも意見交換を行っています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 公立保育幼稚園課 教育指導課 |
| | | | 「枚方市障害児等関係機関連絡会議」については、各機関の現状や新たな取組等について情報共有し、連携につなげるとともに関係機関向け研修を実施しました。また、障害や発達上支援を必要とする子どもや保護者が受けることができる公的な制度や支援の内容、相談できる機関等をまとめた「福祉・教育のてびき」子ども版の改訂作業に取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 市立ひらかた子ども発達支援センター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|----------|---|--|-------------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 関係機関との連携 | まるっとこどもセンター、療育機関、保育所(園)、幼稚園等から小学校、小学校から中学・高等学校、中学・高等学校から進学先・就職先、就職先から福祉施設へと発達障害のある児童を含め障害児童のニーズに応じた進路の選択が行えるよう、庁内及び関係機関との連携を図ります。枚方市障害児等関係機関連絡会議において、障害のある児童及びその周辺の児童(健診等でのフォロー児童等)並びにその家族が抱える様々な問題に対して、情報交換、意見交換等を行い、関係機関の連携を図ります。また、公的な制度や支援の内容、相談できる機関等をまとめたガイドブック「福祉・教育のてびき」子ども版をより分かりやすく改訂します。 | 当課で行っている就学相談や、通学困難タクシー事業等の就学前施設や小中学校と連携しながら行っている支援について共有しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | | | 障害のある児童や発達面・生活面などで気がかりのある児童に対して、スムーズな受入れや適切な保育を実施するために、入室前に放課後子ども課が保護者に対して、電話で児童の発達状況を聞き取っています。聞き取った内容は、課内職員、児童会室職員、ブロック(地域)担当と共有しています。また、保護者の了解の下、出身保育所(園)・幼稚園、及び学校などと情報交換を行い、連携を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 放課後子ども課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|-------------|--|--|---|-------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 保育と就学前教育の充実 | 保育所(園)・幼稚園等において、「ともに生き、ともに育つ」保育を実施するとともに、職員の研修や必要な人材の配置等により、障害のある子どもの支援体制の強化を図ります。 | 公立保育所(園)において、集団保育を必要とする障害児に、「共に生き、共に育つ」保育を推進しています。保育所入所後のフォローとして、巡回相談・保育相談を実施しました。また、障害保育に関わる職員の保育の質の向上を目指し、障害児保育研修会及び障害児保育担当保育士研修をオンラインにより実施しました。また、公立幼稚園においては、「ともに学び、ともに育つ」教育の充実を図るため、障害の状況に応じた適切な教育課程を計画的・系統的に編成し実施するとともに、支援を必要とする幼児が在籍する公立幼稚園(6園)に支援教育担当及び生活支援員を配置し、支援体制の充実を図りました。また、支援教育に関する専門性を高め、障害のある子どもに指導・支援等、様々な課題に対応できる人材の育成に向けて、園内研修や支援会議等を定期的に行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 公立保育幼稚園課 教育指導課 |
| | | | 障害児を受け入れる私立保育所(園)等(46園)に対し、必要な職員の配置に係る人件費の補助を行いました。 | 拡充 令和7年度から障害児補助に係る加配職員の人件費に係る補助金を拡充します。 | 私立保育幼稚園課 |
| | | | 市立ひらかた子ども発達支援センターから依頼を受けて、発達状況を踏まえた指導や障害に対する助言を保育士に行うために、私立保育所(園)への訪問による保育相談を実施しました。実施頻度は年2回、実施園は3園、訪問延べ日数は19日、実施延べ人数は104人でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |
| | | | 小中学校教員とともに支援教育コーディネーターを対象とした研修や支援教育研修へ参加しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 教育研修課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|---------------|---|---|--|----------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 放課後等デイサービスの充実 | 小・中・高等学校に就学する障害児の授業終了後や学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練や支援を行い、療育の充実を図ります。 | 令和6年度は、13事業所が参入(合計84事業所)し、支給決定人数は1,330人、延べ利用日数は169,311日でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 障害企画課 |
| | 日中一時支援事業の充実 | 利用しやすい運用に努め、サービスの充実を図ります。 | 日中一時支援事業は、新規事業者の参入に伴い、サービスの提供も充足され、支給決定者数728人、利用回数23,357回と年々増加しています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 障害企画課 |
| | 留守家庭児童会室運営事業 | 2018年度(平成30年度)より、第1学年から6学年までの全学年の児童の受入れを行っています。障害のある児童については、職員の研修や職員の配置、また学校との連携等により、保育環境や支援の充実を図ります。 | 留守家庭児童会室では、障害のある児童等の受入れにあたり、室全体の運営状況を踏まえて適切な人員を配置することで、放課後の遊び及び生活の場の提供に取り組みました。また、児童会室の職員の資質向上を図る目的として年間を通して研修を12回実施しました。障害のある児童等については、課の職員(臨床心理士や保育士、放課後児童支援員等)が定期的に児童会室を巡回し、保育環境や支援の充実を図りました。 | 拡充 児童会室の職員の資質向上を図る目的として研修の回数を増やしていく予定です。 | 放課後子ども課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|-----------|---|--|-------------------------------|-------------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保育・療育・教育の充実 | 通学支援の充実 | ひとりで通学が困難な児童を対象として、保護者の就労や病気療養等のやむを得ない理由がある場合に通学ガイドヘルパーを派遣し、通学の支援を行います。 | ひとりで通学が困難で、就労や病気療養等やむを得ない理由により保護者が一定期間通学につき添うことができない障害のある児童、生徒を対象に障害児通学支援事業を継続して実施しています。令和6年度の支給決定者は72人でした。障害福祉サービス等報酬改定に伴い、令和6年4月1日より事業所に支払う委託料について、最初の1時間までを1,800円から2,000円に、それ以後の加算額については15分ごとまでにつき450円から500円に引き上げました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 障害企画課 |
| | 進路指導の充実 | 関係機関との連携を強化しながら、卒業後の進路選択の幅が広がるよう、進路指導の充実を図ります。 | 障害のある幼児、児童、生徒の進路について、十分な情報を提供し、進路の支援に努めました。小中学校園で連携し、中学校区で全体指導計画を作成し、夢や志を持ち主体的に自らの生き方を考えさせることができました。また、障害のある幼児・児童・生徒の理解や適切な指導の推進のため、支援学校や関係機関との連携を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | 巡回相談・保育相談 | 専門の相談員による市内保育所、幼稚園等を巡回し、発達検査の実施や行動観察を行い、保護者との面談や保育士への助言を行い子どもの発達の支援を行います。 | 公立保育所・幼稚園を対象とした巡回相談を延べ304件(内幼稚園100件)、私立保育所・幼稚園及び認定こども園を対象とした保育相談を延べ1,104件(内幼稚園65件)実施し、保護者との面談や保育士への助言を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 市立ひらかた子ども発達支援センター |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------------|----------------|---|---|--|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) インクルーシブ教育・保育の推進 | 障害のある児童への教育の充実 | 小・中学校において、個別の教育支援計画等を活用し、障害のある児童・生徒等のニーズに応じた適切な教育を行えるように努めます。また、教職員研修の充実や、支援学校などのスタッフ及び専門家による巡回相談を活用しながら、教育の充実を図っていきます。 | 障害のある児童・生徒に対する支援の充実について、支援教育コーディネーター支援充実事業(会計年度任用職員講師の配置)、障害児機能回復訓練事業(理学療法士、言語聴覚士、作業療法士の派遣)、セルフわらしべ乗馬体験事業を実施しました。また、肢体不自由児介助員・学校看護師を配置しました。市教委主催の教職員研修の充実について、支援教育研修を3回、支援教育コーディネーター研修を2回、通級指導実践研修を3回実施しました。専門家等による学校支援の充実について、支援教育学校園支援事業(小・中学校への専門家等の派遣)、大阪府立支援学校コーディネーターによる巡回相談、リーディングチーム(通級指導教室担当者)による巡回相談を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | | | 市教委主催の教職員研修を以下の通り行い、充実を図りました。 支援教育コーディネーター研修は、「支援教育コーディネーターの役割と学校園の支援体制」・「幼児・児童・生徒のアセスメントと支援教育について」というテーマで2回行いました。 支援教育研修は、「支援学級における学級経営と授業」・「子どもの見取りと支援のあり方」・「通常の学級で行う愛着障害サポート」というテーマで3回行いました。 中学校初任者研修・小学校初任者研修は、「支援教育の理解と実践」というテーマで1回行いました。 市費負担教員研修・1年目小中学校講師研修[定数内]は、「インクルーシブ教育の視点から学ぶ支援教育」というテーマで1回行いました。 5年目小中学校教諭研修は、「通常の学級におけるインクルーシブ教育」というテーマで1回行いました。 小中学校10年経験者研修は、「すべての子どもに「わかる・できる」を～インクルーシブ教育の理念と実践～」というテーマで1回行いました。 | 拡充 小中学校の1年目から10年目の教諭に対して、キャリアステージに応じた系統的な支援教育について研修する機会を拡充します。 | 教育研修課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------------|----------------|---|--|------------------------|----------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) インクルーシブ教育・保育の推進 | 相談の実施と保護者との連携 | 障害のある児童・生徒の保護者への相談を行うとともに、保護者と学校の連携強化を図ります。 | 電話や面談による教育相談を実施しました。また、保護者の相談を受けるとともに、必要に応じて、学校や関係機関との連携を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | 医療的ケア児の受入れ体制整備 | 2021年(令和3年)9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、2022年(令和4年)8月に医療的ケア児の受入れ体制を整備するため市独自の保育所等における当該児の受入れに関するガイドラインを策定し、本ガイドラインに沿って当該児の保育所等への入所を安全かつ円滑に進めます。 | 医療的ケアを必要とする児童・生徒の在籍する小中学校に学校看護師を配置し、日常生活を支援しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 支援教育課 |
| | | | 公立保育所においてはガイドラインに基づき1人の医療的ケア児を受け入れました。看護師の加配を配置し、日々の医療的ケアを行い、所長、保育主任、担任とともに集団支援と就労支援を行いました。次年度医療的ケア児受け入れに向けて、課内会議や関係課会議を行い、検討会議に向けて議論を重ね受入れ体制を整えました。保護者においては、入所前施設見学を必須とし、園の状況を施設長とともに確認してもらい看護師面談を受けられた後、検討会議で入所の可否を決定しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 公立保育幼稚園課 |
| | | | 看護師等を配置して医療的ケア児を受け入れ、適切な支援を行いました。受入れ施設数は3施設(公立1施設、私立2施設)で、対象児童は3人(公立1人、私立2人)でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 私立保育幼稚園課 |
| | | | 日常的に医療的ケアを必要とし、集団保育が可能な児童について、保育所(園)等への利用調整を一般受付より先行して実施し、令和7年4月から3人の医療的ケア児が入所となりました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保育幼稚園入園課 |

3 災害対策

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|-------------|---|--|---|-----------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | 避難行動要支援者の把握 | 地域防災計画に基づき、災害時に必要な支援を実施するため、避難行動要支援者名簿を作成しています。この名簿に登載された人の内、平常時からの情報提供に同意された人について、消防、警察、民生委員、自主防災組織等へ名簿情報を提供します。また、関係機関と連携の上「個別避難計画」の作成体制を推進します。 | 災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。 名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者(児)、③療育手帳Aを交付されている知的障害者(児)、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者(児)、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者です。 平時には名簿搭載者のうち、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意している対象者の名簿情報を、地域の民生委員等へ提供しており、地域の民生委員等が平常時に名簿情報を活用し、平常時の見守り、災害時の情報伝達、安否確認、避難支援等に役立っています。 災害時には避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者に提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用します。 | 拡充 市内の全避難行動要支援者に記入フォーマットを送付し、セルフプラン方式による「個別避難計画」の作成促進に取り組みます。 | 危機管理対策推進課 |
| | | | 災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。 名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者(児)、③療育手帳Aを交付されている知的障害者(児)、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者(児)、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者です。 平時には名簿搭載者のうち、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意している対象者の名簿情報を、地域の民生委員等へ提供しており、地域の民生委員等が平常時に名簿情報を活用し、平常時の見守り、災害時の情報伝達、安否確認、避難支援等に役立っています。 災害時には避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者に提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用します。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 介護認定給付課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|-------------|---|---|-------------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | 避難行動要支援者の把握 | 地域防災計画に基づき、災害時に必要な支援を実施するため、避難行動要支援者名簿を作成しています。この名簿に登載された人の内、平常時からの情報提供に同意された人について、消防、警察、民生委員、自主防災組織等へ名簿情報を提供します。また、関係機関と連携の上「個別避難計画」の作成体制を推進します。 | 避難行動要支援者名簿を作成し、平常時からの情報提供に同意された方については、自主防災組織や民生委員等の避難支援等関係者へ名簿情報の提供を行いました。また、災害時に安否確認や避難支援等の必要な支援を行えるように、避難行動要支援者名簿管理システムを活用し、名簿情報を適切に管理しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |
| | | | 平成29年度から、毎年度、身体障害者手帳1・2級、療育手帳A及び精神障害者保健福祉手帳1級の所持者など、避難行動要支援者名簿の掲載対象となった方に対して、同意書を郵送し、同意を得られた対象者の情報を掲載した名簿の整備を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | | | 人工呼吸器の装着や気管切開を行っている難病患者について、災害時の安否確認や必要な支援を行うため、災害時要援護者リストとして情報を管理しています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健予防課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|---------------------|---|--|------------------------|-----------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | 防災意識の高揚と地域での支援体制づくり | 防災について啓発を行うとともに、災害時の避難場所や緊急時における連絡方法等の周知を図ります。また、自然な形で支援を受けられるよう、日常的な関係づくりを含めた地域支援体制の強化を図ります。 | 防災に関する出前講座を38回実施し、地域での防災意識を高める取組を行いました。また地域における自主防災訓練への支援を42回実施し日常的な関係作りを含めた地域支援体制の強化を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 危機管理対策推進課 |
| | | | 枚方市総合防災訓練(ひこ防'2)において、枚方市と災害時における協力支援協定を締結する団体と連携して、枚方市総合福祉センターにて福祉避難所における要配慮者の受入訓練を行いました。また訓練後には、参加者同士で福祉避難所のより円滑な運営体制について意見交換を行いました。 その他にも、大阪府が開催する大阪府災害福祉支援ネットワーク会議に参加し、平時から大阪D-WATとの関係づくりを行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康福祉政策課 |
| | | | 避難行動要支援者の市内小学校区ごとの名簿を整備したほか、災害情報カードの配布にかえて、平成31年1月からヘルプカード(必要な支援や連絡先を記載)を配布し、障害者の安否確認から避難誘導、避難所生活などへの配慮が可能となるよう体制整備に取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | | | 日常的な関係作りを含めた地域支援体制の強化について、避難行動要支援者名簿プロジェクトチームで意見交換を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 介護認定給付課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|-----------|---|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | ヘルプカードの配布 | 緊急時や災害時、困ったときに、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくする「ヘルプカード」を配付します。 | 平成31年1月から、災害情報カードに替えて、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を窓口で交付する際に、手帳とともにヘルプカードを配布しています。このカードに、支援が必要な事項を具体的に記載して所持していただくことで、災害時の避難生活等においても、より適切な支援が行われるように取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 緊急通報装置の設置 | 緊急通報装置の貸与事業については、継続して事業を実施し、ひとり暮らしなどの重度障害者の不安感の解消を図ります。 | ひとり暮らしの身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者等に対して、緊急通報装置を貸与することにより、急病・災害等の緊急時における迅速かつ適切な対応を確保するとともに、ひとり暮らしの不安解消を図りました。令和7年3月31日現在、32名が緊急通報装置を利用中です。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|-------------------------|--|--|---|-----------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | 災害時における要配慮者の支援と福祉避難所の充実 | 地域防災計画に基づき、障害者の安否確認、避難誘導、避難所生活における配慮などの安全対策を的確に実施できる体制の整備に取り組めます。また、幅広い障害特性に応じた避難生活ができる福祉避難所の充実等に取り組めます。 | 災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者(児)、③療育手帳Aを交付されている知的障害者(児)、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者(児)、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者です。災害時には避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者へ提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用します。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 危機管理対策推進課 |
| | | | 枚方市総合防災訓練(ひこ防'2)において、枚方市と災害時における協力支援協定を締結する団体と連携して、枚方市総合福祉センターにて福祉避難所における要配慮者の受入訓練を行いました。また訓練後には、参加者同士で福祉避難所のより円滑な運営体制について意見交換を行いました。そのほかにも、災害時の避難生活において、特別の配慮が必要な方に適切に対処するため、福祉避難所のあり方について検討を行いました。 | 拡充 対象事業所に指定福祉避難所に関する意向調査を実施し、指定を受ける意向を示した事業所について順次指定手続きを進めています。 | 健康福祉政策課 |
| | | | 災害時に一次避難所での避難生活を送ることが困難な要支援者の受入先として、ラポール枚方や総合福祉センターを福祉避難所に指定しています。また、市内の入所施設等と協定を締結していて、市がトリアージュを行った要支援者を受け入れる体制をとっていますが、新たに、あらかじめ選定した障害者が直接避難できる福祉避難所の指定を進めるため、関係課と連携して生活介護事業所を対象とした説明会を開催しました。 | 拡充 対象事業所に指定福祉避難所に関する意向調査を実施し、指定を受ける意向を示した事業所について順次指定手続きを進めています。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------|----------------------|---|---|-------------------------------|-------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 自然災害 | 難病患者・重症心身障害児等への災害時対応 | 指定難病患者で24時間人工呼吸器装着または気管切開を行っている患者とその家族、人工呼吸器装着児とその家族に対し、保健師が個別に、災害時に対応できるよう準備物や行動確認等の助言を行います。 | 人工呼吸器装着や気管切開を行っている難病患者への家庭訪問を実施し、災害時の備えや避難行動について確認を行いました。また、災害時の安否確認や支援のために管理している災害時要援護者リストについて、情報の更新を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健予防課 |
| | | | 人工呼吸器装着児や気管切開を行っている児について、災害時要援護児リストを作成し情報を管理しています。保健師が個別に訪問し、災害時の準備や行動確認等の助言を行い、個別避難計画を作成しました。保健師による要援護児の災害時安否確認訓練を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | まるっとこどもセンター |

3. 安心して生活できるサービスの確保と提供

1 地域生活への支援

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------|-----------|--|--|--|-----------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上 | 訪問系サービス | 様々な障害特性に応じて必要なサービス提供ができるよう、事業者と連携して、介護者の人材の資質の向上に努めます。 | 令和6年度の居宅介護の支給決定者数は1,155人、利用実績は374,253時間、重度訪問介護の支給決定者数は30人、利用実績は150,658時間、同行援護の支給決定者数は184人、利用実績は31,291時間、行動援護の支給決定者数は43人、利用実績は12,221時間でした。 事業者連絡会と連携し、研修等を通じて介護人材の質の向上に取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 障害企画課 |
| | 短期入所サービス | 事業所の新規開設や定員増等について事業者に働きかけます。また、緊急利用や医療的ケアへの対応等様々なニーズに対応したサービスの確保に努めます。 | 令和6年度の支給決定人数は1,013人で、16,404日の短期入所の利用があり、年々増加しています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課・ 障害企画課 |
| | 日中活動系サービス | 利用者ニーズに応じたサービス提供の確保に努めるとともに、事業者の支援施策として既存事業者の施設整備や定員増のほか、新たな日中活動の場の確保とこれを担いうる人材の育成に努めます。 | 日中活動系サービスの事業所へ通所する在宅の精神障害者等に対して交通費の一部を助成する「枚方市障害者通所支援補助事業」を実施し、通所サービスの活用を促しました。77事業所を利用する187人に給付しました。なお、JRや京阪電気鉄道等の鉄道事業者各社の運賃割引制度において、令和7年(2025年)4月1日から、これまでの身体障害者や知的障害者に加えて、精神障害者も対象とされることから、当事業については、令和7年(2025年)3月31日をもって廃止しました。 就労継続支援B型事業所の新規整備に係る、枚方市障害者施設等整備費補助金の協議の申請が1件ありましたが、採択されませんでした。 | 見直し 「枚方市障害者通所支援補助事業」の廃止に伴い、令和7年度以降は精神障害者についても身体障害者、知的障害者と同様の条件で通所事業を利用することになります。 | 障害支援課 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------|---------|--|--|-------------------------------|----------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上 | グループホーム | 事業者に対し、バリアフリー化等に係る支援を行い、グループホームの重度障害者の受入促進を図ります。また、世話人の養成講座を実施し、人材の確保・育成に努めます。 | 令和6年4月にグループホーム運営補助金要綱を改正し、グループホーム入居者のうち7割5分以上の者が本市で障害支援区分5・6の決定を受けている場合、当該事業所に対して枚方市グループホーム運営補助金を交付することになりました。それにより、グループホームの運営の安定化と障害福祉サービスの質の向上を図りました。10事業所に対して計31,890,000円交付しました。 枚方市グループホーム重度障害者対応改修補助金の令和6年度の交付申請は0件でした。 令和6年8・9月に「枚方市知的障害者グループホーム世話人養成研修」を開催し、7人が受講し、6人が修了しました。また、2・3月には7人が受講し、7人が修了しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 移動支援 | 増大し多様化する利用者ニーズに対応するため、ガイドヘルパー養成研修を実施するなど、人材の確保・育成に努めるとともに、利用対象者の範囲や利用目的を見直すなど、制度の利便性向上に努めます。 | 8・2月に枚方市障害者ガイドヘルパー養成研修を実施し、53人に修了証を交付しました。また、移動支援の令和6年度の支給決定人数は1,958人、利用実績は193,057時間でした。 障害福祉サービス等報酬改定に伴い、令和6年4月1日より事業所に支払う委託料について、最初の1時間までを1,800円から2,000円に、それ以後の加算額については15分ごとまでにつき450円から500円に引き上げました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------|--------------|--|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上 | 地域活動支援センター | I型は、多様なニーズに対応するための拠点として各地域の障害者支援の中心的役割としての機能を高めます。II型・III型は、創作的活動、生産活動、交流の場等、障害者の日中活動の場として、計画的に整備を促進します。 | 地域活動支援センターI型は6事業所、II型は1事業所、III型は2事業所が枚方市内にあり、枚方市障害者地域生活支援事業として8法人に運営を委託しました。III型事業では創作的活動、生産活動、社会との交流促進等を、II型事業では機能訓練や社会適応訓練等が加わり、I型事業では更に相談支援事業、社会基盤との連携を図るとともに、ボランティア育成や障害に対する理解促進のための啓発事業等を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 日常生活用具・補装具 | 適宜、取扱品目や給付限度額を見直すなどをして、障害者の生活実態に見合ったサービス提供に努めます。 | 他市の状況を確認しながら、取扱品目の見直しをするなどして、障害者の生活実態に見合ったサービス提供に努めました。 また、身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中度難聴児への補聴器給付事業について、18歳未満の身体障害者手帳の対象とならない軽度・中度難聴の若者難聴者(両耳共に30デシベル以上)の方を対象としていましたが、令和6年4月1日より対象年齢を22歳到達年度までに拡大しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 高齢障害者の日常生活支援 | 高齢障害者のサービス利用は介護保険が優先ですが、介護保険にはない障害特性に由来する必要なサービスを提供します。また、障害固有のニーズを考慮したサービス提供に努めます。 | 障害福祉サービス利用者の中で介護保険サービスが優先される方をあらかじめ把握した上で、事前に介護認定の促しを行い、切れ目なくサービスが受けられるように心がけ、また、介護保険サービスにない障害福祉サービス固有のものや、障害特性によって障害福祉サービスでの提供が適切と判断した方については、引き続き障害福祉サービスを提供しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------------|-----------------|---|---|------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上 | 福祉事業者の指定・指導監督 | 指定障害福祉サービス事業所等の指定、指導監督等を行い、自立支援給付対象サービス等の質の確保及び自立支援給付等の適正化を図ります。 | 所管の指定障害福祉サービス事業者等を対象とした集団指導や指定時研修等を通じて、関係法令や制度の趣旨・目的、自立支援給付費にかかる算定要件等について周知しました。 また、個別の事業所に対して実施した実地指導では、訪問系事業所や入所施設などを対象に18件実施し、指定基準及び報酬基準に沿った適切な運営・報酬算定が行われているかなどの確認や改善指導等を行いました。また運営基準に違反している疑いがあるなど、特に必要と認められる事業所に監査を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 福祉指導監査課 |
| | 各種養成講座の実施 | 手話・要約筆記・点訳・音訳等の講習会を実施し、奉仕員の裾野を広げ、また、有資格者の拡大をめざします。 | 手話講習会を午前の部40回、夜間の部40回実施し、計33人が修了しました。 手話ステップアップ講座を午後の部20回、夜間の部20回実施し、計15人が修了しました。 点訳講習会を10回実施し、5人が修了しました。 音訳講習会を、声を出す実技を省略して6回実施し、5人が修了しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| (2) 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実 | 手話通訳者・要約筆記者等の派遣 | 利用者のニーズに応じて、手話通訳者・要約筆記者等を派遣します。また、登録手話通訳者のスキルアップを図るための現任研修を実施します。 | 要約筆記通訳事業では、14件、計101.5時間派遣しました。 手話通訳派遣事業では、975件、計1,565時間派遣しました。 登録手話通訳者現任研修を8回実施し、最大28人が受講しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------------|------------------|---|--|------------------------|------------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実 | 点字・音声・手話等による情報提供 | 広報ひらかた、枚方市議会報、ひらかた健康便利帳など市政情報を点字、音声で提供します。市主催事業について、手話通訳者の設置を働きかけます。また、市のホームページについて、音声ガイドを設けるなど、ユニバーサルデザインの充実を図ります。 | 毎月発行している広報ひらかたの点字版・音声版を希望者に提供したほか、市ホームページから音声版を広く利用できるようにするなど、ユニバーサルデザインの充実を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 広報プロモーション課 |
| | | | 「ひらかた健康便利帳」の点訳・録音盤を作成し、対象者へ提供しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |
| | | | 令和6年度に開催した、枚方市社会福祉審議会障害福祉専門分科会及び自立支援協議会全体会では、手話通訳者に加えて、拡大文字による資料の作成を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | | | 前年度と同様に、令和6年度も枚方市議会報の内容を全文掲載した点字・声の議会報を発行し、全ての希望者に配布するとともに、枚方市議会報と市議会ホームページで点字・声の議会報のPR文を掲載しました。また、声の議会報の音声データについても引き続き市議会ホームページで公開しました。 手話通訳者の配置については、令和6年度は1件の依頼があり、配置を行いました。今後も枚方市議会報や市議会ホームページで周知を図ります。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 議事調査課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------------|---------------------------|--|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実 | 重度障害者入院時コミュニケーション支援 | 重度訪問介護および行動援護等の支給決定を受けており、コミュニケーション支援が必要な重度の障害者が入院した場合に、医療機関との意思疎通を円滑に図ることができるよう支援します。 | 入院時のコミュニケーション支援のニーズに対応するため、より多くの障害者が安定した入院生活を送ることができるよう、令和元年10月に本事業の要綱を改正し、対象者を拡大しました。令和6年度の利用者は0人でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 緊急通報時手話通訳派遣事業(タブレット端末を利用) | 聴覚障害者が新型コロナウイルス感染症の疑い等の感染症対策のため、緊急受診の際の手話通訳者派遣について、タブレット端末等を利用した遠隔手話通訳を実施します。 | 聴覚及び言語機能障害者とその家族が、病気又は事故により救急車を要請した場合などの緊急通報時において、健聴者との意思疎通を円滑にするために緊急通報時手話通訳者を派遣しました。また、新型コロナウイルス感染症の疑い等あった場合は、感染症防止の対策として、タブレット端末等を利用して遠隔手話通訳を行いました。令和6年度の実績は646件中、医療通訳149件でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|------------------------------|----------------------|--|--|--|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実 | 遠隔手話通訳対応(タブレット端末を利用) | 遠隔によるタブレット端末を利用した手話通訳を本庁4か所のほか、中央図書館並びに3支所の窓口で実施。また、平日に加え、土日祝日における急な手話通訳の依頼にも対応できる遠隔手話通訳サービスを委託事業者により、実施します。 | 昨年度に引き続き、健康福祉総合相談課、障害企画課、市民課、3支所、保険年金課、中央図書館で運用を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | DX推進課 |
| | | | 令和6年度は646件、83人が遠隔手話通訳サービスを利用しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 行政サービスの電子申請に向けた取組 | 電子申請により、市民の利便性の向上を図るため、対応可能な業務から順次対応していきます。 | 市の様々な手続きのオンライン化を図るため、汎用的電子申請サービス「Logoフォーム」及び国の電子申請サービスである「ぴったリサービス」を活用し、電子申請が可能な手続きの拡充を進めました。これらの電子申請サービスの活用により、昨年度に引き続き全庁的な手続きのオンライン化を推進しました。 | 拡充 電子申請が可能な手続き数の拡充など取組みを発展・拡充させます。 | DX推進課 |
| | | | 一部の業務において、LoGoフォームを活用した電子申請での受付を行い、市民の利便性の向上を図りました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 各課 |

2 緊急時の対応

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|-------------------|--|--|---|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 障害ニーズに応じた対応 | 緊急通報装置の設置【再掲】 | 緊急通報装置の貸与事業については、継続して事業を実施し、ひとり暮らしなどの重度障害者の不安感の解消を図ります。 | ひとり暮らしの身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者等に対して、緊急通報装置を貸与することにより、急病・災害等の緊急時における迅速かつ適切な対応を確保するとともに、ひとり暮らしの不安解消を図りました。令和7年3月31日現在、32人が緊急通報装置を利用中です。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 地域生活支援拠点の機能の充実 | 相談、ひとり暮らしやグループホーム等の体験の機会の場、緊急時の受入れや対応等、地域生活支援拠点の早急な整備に向けて取り組み、コーディネーターを配置するなど機能の充実に努めます。 | 地域生活支援拠点の機能の1つである緊急の受入体制については市内10か所の短期入所事業所と協定を締結し、1件の実績がありました。また、未整備である「体験の場」の設置に向けて障害福祉専門分科会の連携機関であるワーキンググループ会議等において協議を行い、具体的な事業形態について一定の方向性を得ました。 | 拡充 未整備である「体験の場」の整備を進めることにより、5つの機能全ての整備の完了による拡充を目指します。 | 障害企画課 |
| | ネット119緊急通報システムの活用 | 聴覚、音声・言語又はそしゃく機能の障害により、音声による119番通報が困難な人のために枚方寝屋川消防組合等が提供するネット119緊急通報システムの周知と利用促進に努めます。 | ネット119緊急通報システムの利用を希望される障害のある方に申請手続きの案内を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

3 保健・医療との連携

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-----------|--|---|-------------------------------|--------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保健・医療との連携 | 健康相談事業の推進 | 生活習慣病や日常の健康管理などについて、保健師や管理栄養士などの専門職員による指導や助言を行います。 | 定例での健康相談・栄養相談の実施や電話・窓口での個別相談に加え、各種イベントなどで相談ブースを設けました。また、疾病の重症化予防のために訪問による個別指導を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |
| | 訪問指導事業の推進 | 保健師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・歯科衛生士などの専門スタッフによる訪問指導事業に取り組めます。 | 必要に応じ、保健師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士による訪問指導を引き続き実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |
| | 健康教育事業の推進 | 生活習慣病の予防や健康の保持・増進が図れるよう、健康に関する正しい知識を普及する健康教育事業に取り組めます。 | 市民や市内企業からの依頼により地域に出向いて、専門職による健康に関する講座を実施しました。また健康に関する講座や重症化予防の教室などを市立ひらかた病院、生涯学習市民センター等で実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-----------|---|--|-------------------------------|--------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保健・医療との連携 | 口腔保健の推進 | 障害者(児)の入所・通所施設で歯科健康診査や口腔衛生指導が実施できるよう環境整備に努めるなど、障害者(児)の口腔ケアや口腔機能の向上を図ります。 | 障害者(児)の入所・通所施設に出向き、歯科健康診査及び口腔衛生指導を行いました。また、希望施設に対して、施設職員や通所・入所者に対し、健康教育や歯磨き指導を実施しました。歯科健康診査は31施設261人に、健康教育・口腔衛生指導は14施設231人に行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 健康づくり課 |
| | 難病患者の療養支援 | 指定難病患者とその家族の在宅療養支援を目的に保健師や専門職による相談事業、訪問指導事業、医療講演会、患者家族交流会等を実施します。また、支援スタッフの難病に関する知識・理解の促進や支援技術の向上を図るため、関係機関等に研修会を実施します。 | 保健師による相談支援は、訪問は延べ297件、面接は延べ964件実施しました。リハビリ専門職や栄養士・臨床心理士による相談事業は27回実施し、相談延べ件数は50件(うち訪問延べ件数は37件)でした。ALS患者の家族を対象とする交流会は5人が参加しました。庁内保健師や訪問看護ステーションの看護職等を対象とする訪問相談支援員育成事業については、人工呼吸器等を使用している難病患者への支援をテーマに計2回研修会を実施しました。1回目の災害時支援に関する研修会は31人が参加、2回目のコミュニケーション支援に関する勉強会は12人が参加しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健予防課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-------------------|---|--|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保健・医療との連携 | 精神疾患患者に対する相談体制の充実 | 精神疾患を有する者、または疑いがある者またはその家族等に対して、地域生活等の相談ができるように保健・医療・福祉の重層的な連携を図ります。また関係課で連携し、精神科医や臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等による、精神疾患の早期発見、早期治療の推進等に向けた相談を行います。 | 令和6年度の相談件数は延べ3,048件であり、うち訪問については延べ461件実施しました。 保健所で実施している精神保健相談については、うつや統合失調症、アルコール問題・ギャンブルに関する相談など症状の相談と精神疾患に伴う生活相談が断続的に続いています。 精神疾患の早期発見・早期治療を目的とした相談については、受療支援が延べ136件(うち訪問34件)、精神科医師による診断・判定が延べ85件でした。 また、精神疾患の予防や早期介入につなげることを目的に、心のサポーター養成研修を市民対象にオンラインで1回、対面で1回実施し、計91人を心のサポーターとして認定しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健医療課 |
| | | | 社会的入院をしている精神障害者を対象にピアサポーターがアドバイスや相談支援等を行う、精神障害者地域移行ピアサポート事業を基幹相談支援センターに委託し30回実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 在宅医療体制の充実 | 枚方市内の三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)や訪問看護ステーションと連携し、在宅医療体制の充実に取り組みます。 | 高齢化に伴い、在宅医療の重要性が増す中、本市の在宅医療における「連携の拠点」として枚方市医師会を位置づけ、積極的医療機関(向山病院)の整備に取り組みました。また、実現可能な在宅医療患者緊急対応スキームの模索、多職種の情報共有ツールの導入検討を行いました。令和6年11月、北河内在宅医療懇話会(構成団体:三師会・訪問看護ステーション等保健医療関係者)において、在宅医療連携の拠点等の取組状況、各市の在宅医療・介護連携推進事業の現状・取組状況等の報告・意見交換が行われ、地域で完結できる医療体制構築や関係者の連携体制構築に向けて取り組みました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健医療課 |
| | 障害者歯科診療 | 枚方市歯科医師会と連携し障害者の歯科診療の受診機会をさらに増やすなど診療体制の充実に努めます。 | 枚方市休日歯科急病診療所(枚方市医師会館内)で、毎週木曜日の午後1時～5時に加えて、令和6年度から土曜日の午後2時～6時(月3回)にも診察を実施することにより、障害者等の歯科診療の機会の確保を図りました。令和6年度は延べ1,047人が受診しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------|-------------|--|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 保健・医療との連携 | 在宅難病患者の地域医療 | 難病患者・家族が安心して在宅療養ができる地域づくりに取り組むために、難病専門医、かかりつけ医、地域の医療関係職種等の連携を強化し、医療ネットワークを構築します。 | 健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業 枚方市難病対策 難病ネットワーク部会として、令和6年6月10日に関西医科大学附属病院(難病センター)と事務局会議を開催し、令和7年2月21日に実務者会議を開催しました。実務者会議は、在宅酸素療法を実施している難病患者の実態について共有を図るとともに、子育て期のALS患者と家族への支援について意見交換を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保健予防課 |
| | 病院からの地域移行 | 枚方市自立支援協議会精神障害者地域生活支援部会において医療機関等と連携し、退院促進に取り組みます。 | 枚方市自立支援協議会精神障害者地域生活支援部会が実施してきた枚方市内の精神科医療機関における長期入院患者等への訪問面接について、事務局会議を中心に、面接の再開に向けた検討を進めるとともに、地域での支援課題に対する取組についても検討を行いました。また、定期的に部会を開催し、関係機関との連携強化や退院促進に関する意見交換を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

4. 自分らしい生き方を見つける・選ぶ

1 就労に向けた支援

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|-------------------------|---|---|------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 就労に向けた支援 | 障害者合同就職面接会 | ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターと連携して、「障害者合同就職面接会」の開催を通じて、一般企業等への啓発にも努めます。 | 企業開拓については、ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって進めるなど、新たな雇用を目指した取組を行いました。また、毎年1回開催している「障害者合同面接会」は、令和7年1月の開催で21回目を迎えるとともに、この面接会による就職が実現しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 職場体験機会の提供 | 本市での「庁舎内実習」を実施して、障害のある人の職業体験機会の提供に取り組みます。 | 庁舎内実習は、毎年度、一般就労を目指している障害のある方を、各部署で実習生として受け入れています。また、一般企業等においても、ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって実習の受入れを呼びかけており、職業体験機会の拡大に取り組みしました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | チャレンジ雇用 障害のある人への就労支援 | 2017年度(平成29年度)から実施している、障害のある人を一定期間本市職員として雇用する「チャレンジ雇用」制度を、継続して実施していきます。 | 障害のある方を臨時職員として1か月程度短期雇用する等の検証による実績を踏まえ、将来の就労に向けた更なる支援として、平成29年度から「チャレンジ雇用」を実施しています。令和6年度については、4月に募集を行いました。4人の応募があり、6月に2人を採用しました。令和7年度についても、引き続き募集を行います。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 人事課 |
| | | | 平成29年度からチャレンジ雇用を開始し、知的障害や精神障害のある方を非常勤職員として雇用(1回限り更新可)して支援を行いました。体調不良などのため退職となった方もありましたが、その中から、1人の方については就職が実現しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|--------------|---------------|--|--|--|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 就労に向けた支援 | 市職員への雇用 | 本市の障害者活躍推進計画で目標に掲げる障害者雇用率の実現に向けて、職員採用試験において障害者枠を設けるとともに、非常勤職員等の採用についても同様に取り組んでいきます。 | 令和6年度の障害者雇用率は市全体で3.00%であり、目標を達成しました。雇用率の更なる向上を見据え、障害者の社会進出、雇用促進を目的に、引き続き、事務員の区分に障害者枠を設けて職員採用試験を実施し、令和7年4月に3人を雇用しました。なお、令和7年度から障害者雇用率の目標を3.4%に引き上げるとともに、令和7年度の職員採用試験では応募要件を拡充し、これまでの身体障害者手帳(1級から4級まで)の交付者に加え、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の交付者など、障害の種別や等級を問わず、新たに対象とする予定です。 | 拡充 雇用率の目標値の引上げ及び採用試験の応募要件の拡充など、市職員への雇用の促進を図ります。 | 人事課 |
| | 日中活動系サービス【再掲】 | 利用者ニーズに応じたサービス提供の確保に努めるとともに、既存事業所の施設整備や定員増のほか、新たな日中活動の場の確保とこれを担う人材の育成等事業者の支援施策を講じます。 | 日中活動系サービスの事業所へ通所する在宅の精神障害者等に対して交通費の一部を助成する「枚方市障害者通所支援補助事業」を実施し、通所サービスの活用を促しました。77事業所を利用する187人に給付しました。なお、JRや京阪電気鉄道等の鉄道事業者各社の運賃割引制度において、令和7年(2025年)4月1日から、これまでの身体障害者や知的障害者に加えて、精神障害者も対象とされることから、当事業については、令和7年(2025年)3月31日をもって廃止しました。就労継続支援B型事業所の新規整備に係る、枚方市障害者施設等整備費補助金の協議の申請が1件ありましたが、採択されませんでした。 | 見直し 「枚方市障害者通所支援補助事業」の廃止に伴い、令和7年度以降は精神障害者についても身体障害者、知的障害者と同様の条件で通所事業を利用することになります。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------------|-----------------------------|--|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (2) 就労に関する相談支援 | 就労相談及び職場定着支援 | 枚方市障害者就業・生活支援センターが軸となって、ハローワーク等の関係機関や企業との連絡調整を進めながら、就業、社会生活上の相談支援や職場定着のための支援に取り組めます。 | 枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって、関係機関で構成する実務担当者会議を月1回開催し、障害者の就労支援について議論を行うとともに、合同就職面接会等、一般就労の実現に向けた取組を実施しました。 また、枚方市自立支援協議会就労支援部会では市内の障害者事業所を対象に連絡会を立ち上げ、就労支援員のスキルアップ向上を目的としたセミナーや事例報告会等を開催しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 難病患者働き方相談 | 指定難病患者を対象に、ハローワークや難病診療連携拠点病院である関西医科大学附属病院と連携し、就労や仕事の継続に向けた相談支援を行います。 | 難病患者就労サポーターや、ハローワーク枚方・関西医科大学附属病院と連携し、働き方相談を計5回実施しました。相談延べ人数は計10人でした。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 保険予防課 |
| (3) 工賃向上に向けた支援 | 障害者の工賃改善 | 「福祉バザー」などにより、授産製品の販促活動に取り組んでいきます。また、ひらかた共同受注・優先調達ネットワークの取組への支援を通じて、障害者の工賃アップにつなげていきます。 | 障害者の就労支援と工賃の向上を目的に「福祉バザー」や「ラポールひらかた」、「菅原生涯学習センター」にて物品や飲食物の販売促進を継続的に実施していましたが、「ラポールひらかた」内の喫茶コーナーは令和4年度末に閉鎖しました。 また、就労支援事務局連絡において、複数の事業所が共同受注・優先調達ワーキングチームに参加し、共同受注センターについて研究を行った結果、令和元年度から「ひらかた共同受注・優先調達ネットワーク」を立ち上げ、活動を行っています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 優先調達方針に基づく障害者就労施設等からの物品等の調達 | 優先調達方針に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達を促進します。 | 平成25年4月より障害者優先調達推進法が施行されたことを受け、市役所をはじめ、市内企業、一般市民等が発注可能な障害福祉サービス事業所で取り扱っている物品やサービスを掲載したカタログを作成し、各部署に呼びかけることで、障害者就労施設等の受注機会の増大を図りました。なお、カタログについては、これまでに3度、改訂を行っています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |

2 社会参加と多様な学習への支援

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-----------------|-----------------|---|---|------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 生涯学習の推進 | 社会参加・自立を助ける学習活動 | 生涯学習事業など、様々な場面で学習機会を提供するとともに、障害者の主体的な学習を支援します。 | 各生涯学習市民センターにおいて、障害者(関係)団体に対し、施設の早期予約受付、利用料減免、優先利用可の部屋を設けることなどにより、障害者の活動の機会を広く提供しました。 また、点字版のセンター案内のリーフレットを設置しています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 文化生涯学習課 |
| | | | 令和7年1月13日に開催した枚方市「はたちのつどい」において、聴覚障害者への支援として、式典会場やホームページで放映する市長および議長からのビデオレターに、字幕スーパーを挿入するとともに、希望に応じて手話通訳者を配置できる体制をとりました。また、視覚障害者への支援として、全20会場に点字版のプログラムを準備しました。 社会教育事業として行う各講座においても、希望する聴覚障害者に対して手話通訳者を確保する体制をとりました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 教育政策課 |
| (2) 文化・芸術活動への支援 | 文化・芸術活動の支援 | 障害者の生きがいつくりと、様々な世代にわたって交流を深めていけるよう、各種の文化・芸術活動を支援します。 | 生涯学習市民センターのロビー等のスペースに、創作活動の発表の場を設け、障害者(関係)団体を含め、広く市民による展示・発表の機会の場を提供しています。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 文化生涯学習課 |
| | 図書館サービス | 大活字図書、点字・録音資料、手話・字幕付き映像資料を充実し、対面読書サービスや手話で楽しむおはなし会等バリアフリー行事の実施やICT機器を活用したサービスの検討等を行います。 | 大活字図書を全館で275冊購入・寄贈受入れ、録音図書(デージー図書)を64タイトル製作・購入・寄贈受入れするなど資料の充実を図りました。また、対面読書を全館で87回(内遠隔対面読書は48回)実施しました。行事は、中央図書館では「手話でたのしむおはなし会」を4回(参加者60人)。読書バリアフリー講演会及び手話ブックトーク「～手話言語研究センターの活動と「ろう文化」の理解のための取り組みについて～」を開催(参加者49人)。読書バリアフリー講演会「～読書をあきらめないで！障害や病気で好きな本が読めなくなったあなたへ！～」を開催(参加者28人)。バリアフリー映画上映会は中央図書館で「老後の資金がありません！」を1回(参加者61人)、牧野図書館で「じんじん」を1回(参加者49人)を開催しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 中央図書館 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|-------------------------|--------------------|---|---|------------------------|---------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (3) スポーツ・レクリエーション活動への支援 | スポーツ・レクリエーション活動の充実 | 風船バレーや卓球等のスポーツ事業を定期的を実施し、障害者にスポーツを楽しむ機会を提供するとともに、ウィルチェア(車いす)スポーツ、eスポーツ、ボッチャ等、利用者ニーズの高い種目を選んで、スポーツ・レクリエーション教室を開催します。 | 総合体育館および渚市民体育館において、障害者スポーツの普及の支援を行いました。 ・障害者スポーツスクエア [総合体育館] 延べ124人 月1回開催 [渚市民体育館] 延べ31人 月1回開催 [渚市民体育館] 延べ21人 11月～月1回開催 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | スポーツ振興課 |
| | | | 令和6年度は枚方市障害者スポーツ協会に委託し、実施するスポーツの種目を増やし、多くの障害者にスポーツを楽しむ機会を提供しました。 具体的には、eスポーツ体験会・車いすバスケットボール体験会・ボッチャ&風船バレー体験会を各1回行い、合計58人が参加しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 障害者スポーツ活動への支援の充実 | 市立総合スポーツセンター等での、障害者のスポーツ環境の整備や、障害者のレクリエーション活動等の支援に取り組めます。 | オストメイト対応トイレを設置し、安心して利用できる環境を整備しています。 総合体育館:多目的トイレ1か所 陸上競技場:多目的トイレ1か所 伊加賀体育館:男子1か所 女子1か所 渚市民体育館:男女兼用2か所 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | スポーツ振興課 |

5. 身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供

1 相談・支援体制の充実

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------------------|------------|--|--|---|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供 | 障害者の相談支援体制 | 障害者から相談に応じ、必要な情報提供および助言、サービスの利用支援など関係機関と連携しつつ、地域の社会資源を活用し必要な援助を行います。また、センター間の連携の機能強化を行い、より専門的な対応ができるように、相談支援センターの体制の充実を図ります。 | 市内9か所の地域活動支援センターのうち7か所に障害者地域生活支援事業における相談支援事業を委託し、福祉サービスの利用援助、社会資源を活用するための援助や支援等を行っており、そのうち2法人はピアカウンセリングを行うなど、利用を希望する障害者に対応しています。また、そのうちの3法人を、基幹相談支援センターとして位置付け、身体・知的・精神障害者等に対応した総合的な相談支援の窓口の設置や、特定相談支援事業所及び一般相談支援事業所が困難と感じる事例への後方支援などを行うことで、センター間の連携の機能強化を行い、より専門的な対応ができるよう相談支援センターの体制の充実に努めました。また、附属機関にて委託事業所の事業評価について協議しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 枚方市自立支援協議会 | 相談支援センターをはじめ、地域の関係機関が集まり、障害者が自立した地域生活を営む上で必要となるサービス基盤や人材社会資源の確保などについて検討を行います。 | 隔月で、枚方市自立支援協議会幹事会を開催し、各部会からの報告や今後のサービス基盤整備の方向性等について協議を行いました。また毎年度開催することとしている枚方市自立支援協議会全体会を開催し、相談支援センターの実績報告等について、評価・検証を行いました。 | 拡充 自立支援協議会の幹事会を中心に、地域生活支援拠点の運営の一角としての機能強化を図ります。 | 障害企画課 |

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|---------------------------|-----------------|---|---|---|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供 | 病院、入所施設からの地域移行 | 退院・退所した障害者が地域で自立した生活を送れるよう、関係機関や相談支援センターとともに、必要な相談や支援を行える体制づくりを進めます。 | 枚方市自立支援協議会の専門分科会として精神障害者地域生活支援部会を設置し、関係機関の協力のもと、枚方市管内精神科病院の社会的入院患者に対し訪問面接等の再開に向け検討を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 地域定着支援 | 地域移行後や「ひきこもり」等、地域との接点が少ない障害者に対し、地域でいきいきと安定した生活を営めるよう訪問などする中で、必要な支援を地域の社会資源を活用しながら、関係機関と連携し進めます。 | 安心して地域生活が営めるよう、関係機関と連携し、必要な情報交換を行いながら、支援を行いました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |
| | 地域生活支援拠点の整備【再掲】 | 相談、ひとり暮らしやグループホーム等の体験の機会の場、緊急時の受入れや対応等の機能を有した地域生活支援拠点の整備に取り組み、コーディネーターを配置するなど機能の充実に努めます。 | 地域生活支援拠点の機能の1つである緊急の受入れ体制については市内10か所の短期入所事業所と協定を締結し、1件の実績がありました。また、未整備である「体験の場」の設置に向けて障害福祉専門分科会の連携機関であるワーキンググループ会議等において協議を行い、具体的な事業形態について一定の方向性を得ました。 | 拡充 未整備である「体験の場」の整備を進めることにより、5つの機能全ての整備の完了による拡充を目指します。 | 障害企画課 |

2 関係機関との連携による支援の充実

| 施策 | 施策名 | 取組 | 令和6年度実績 | | 所管課 |
|----------------------|--------------------|---|---|-------------------------------|-------|
| | | | 取組内容 | 今後の方向 | |
| (1) 関係機関との連携による支援の充実 | 多様な手法によるわかりやすい情報提供 | 障害者の福祉サービス制度利用を促進するために、サービスの内容、手続きの方法等を掲載したパンフレットやポスター、広報ひらかた、ホームページ、窓口での対応などによってわかりやすい情報提供に努めます。 | 障害者手帳を交付する際、障害者に係る福祉制度や手続き方法を掲載した冊子「福祉のてびき」を窓口で配布し、内容を説明しました。 また、市内各支所及び障害者相談支援センター7か所への冊子の設置や枚方市ホームページへの冊子データの掲載をすることにより、福祉サービス制度の周知に努めました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害企画課 |
| | 医療的ケア児等支援連絡会議 | 連絡会議を通じ、医療的ケア児の在宅生活を支援する関係機関による意見交換や情報提供を図ります。 | 医療的ケア児等支援連絡会議を開催し、医療的ケア児に関する情報共有を図るとともに、関係機関から報告のあった支援の現場での課題について意見交換を実施しました。 | 現状維持 これまでの取組を継続します。 | 障害支援課 |